

栗原古墳

伊勢原市教育委員会



環頭大刀把頭

かんとうたちつかがしら 環頭大刀把頭

三ノ宮、栗原の畑から大正時代に出土した大刀の把頭たちです。耕作中に発見されたもので、直接古墳から出土したわけではありません。かつて近隣にこうした副葬品を納めた古墳があったと考えられます。

把頭は刀の柄え（握り）の先端につく装飾で、実用的な大刀ではなく、儀式用の装飾豊かな大刀に装着され

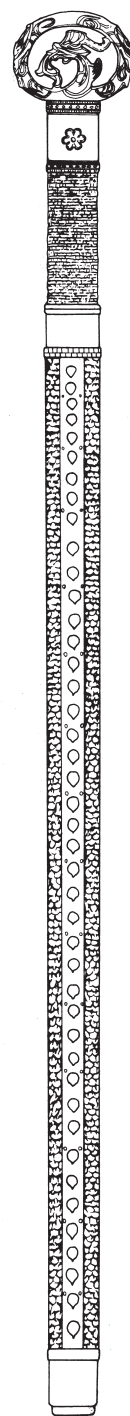
ます。柄つばや鐔つばに金銀をあしらい、木製の鞘さやにも金色に輝く飾りを付けられたきらびやかな大刀の柄部分を飾ります。材質は表面に金を施した銅製で、雲をかたどった円環の内部に竜が配されています。伊勢原市の指定文化財です。

装飾大刀の全体像

通称「飾り大刀」と呼ばれるきらびやかな大刀は、漆塗りの鞘、鞘飾り、吊り金具、鐔つば、そして握りとなる柄と把頭に金銀の装飾を施しています。特に柄の部分は凝った造りになっており、金の鐔や鞘口金具、さらに握る部分には細い金、銀の糸を巻き付けています。実用ではなく、持ち主の権威を表わす意味があったと考えられています。

装飾大刀の意味

こうした装飾大刀は、大和政権の管理下、国内の工房で製作され、各地に配布されたと考えられています。つまり、この刀の出土は中央との太いつながりを持つ最高権力者の存在を想定させます。飛鳥地方でちょうど聖徳太子が活躍していた6世紀後半頃にあたります。

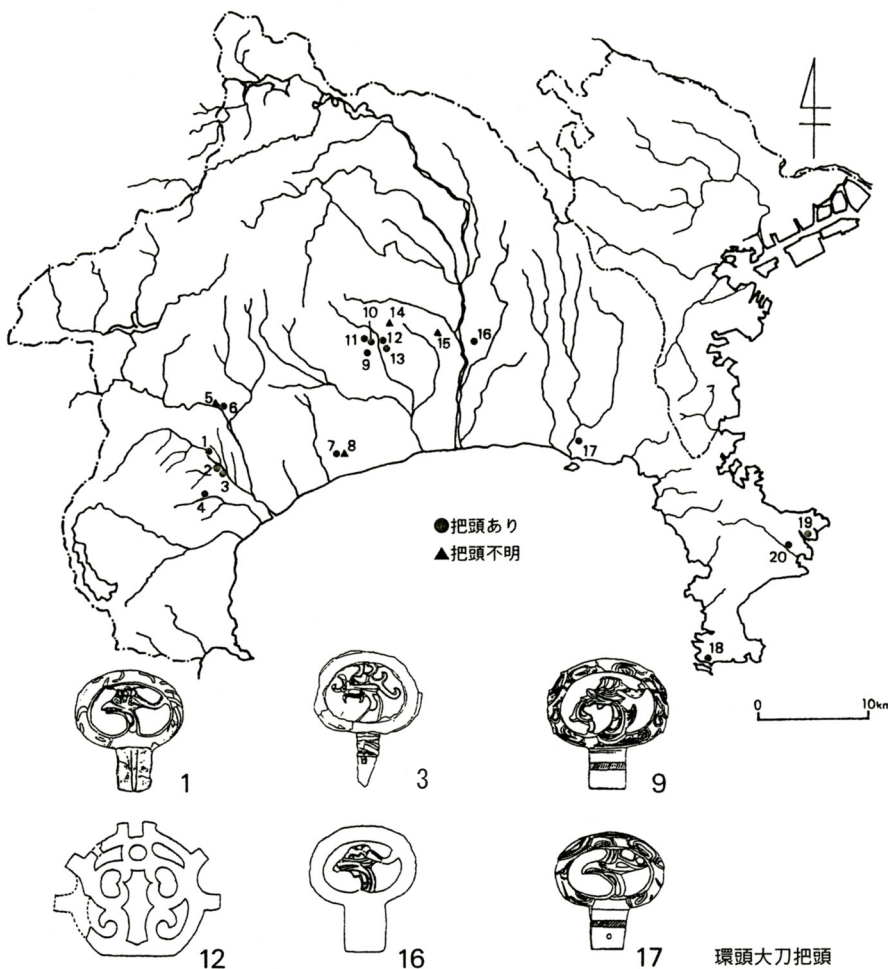


装飾大刀の模式図

古墳のさまざまな装飾品から被葬者の階層性を検討した研究では、装飾大刀がその最上位に位置づけられており、さらにその中でもこの環頭大刀が最も貴重な大刀とされています。相模国の領域内では、金銀で飾られた装飾大刀が20数例見つっていますが、そのうち環頭大刀の出土は南足柄市の2例、伊勢原市の2例、さらに海老名市と藤沢市の合わせて6例に過ぎません。その中でもこの栗原古墳の資料が最も古く、作りも精巧です。横浜にある神奈川県立歴史博物館には、この資料のレプリカが展示されています。

金装、銀装大刀の分布

下の図は、現在の神奈川県のおおくを占める相模国（川崎、横浜のほとんどは武蔵国）において、金銀で飾った大刀の分布を表わしたものです。分布の集中する地点として、酒匂川上流の南足柄市周辺と丹沢山地の東側の裾にあたる伊勢原市周辺を挙げるができます。そして、なかでも最も集中するのが、伊勢原市の三ノ宮付近であることがわかります。このことから、当時の相模地域を治めた最高権力者が、伊勢原の三ノ宮周辺に葬られたことがわかります。



相模国領域出土の装飾大刀

No.	遺跡名	種類
師長	1 塚田2号墳	金銅装単鳳環頭大刀
	2 塚原山神塚古墳	金銅装圭頭大刀
	3 岩原黄金塚古墳	金銅装単竜環頭大刀
	4 久野2号墳	金銅装円頭大刀
	5 諏訪脇B5号横穴墓	金銅装圭頭大刀
	6 諏訪脇C801号横穴墓	(金銅製鐔)
	7 河南沢1号横穴墓	金銅装圭頭大刀
	8 唐沢8号横穴墓	(金銅製鍔付足金具)
相	9 登尾山古墳	金銅装圭頭大刀 金銅装大刀 (円頭or圭頭)
	10 栗原中島古墳	金銅装単竜環頭大刀
	11 ちちめん古墳	銀装大刀 (円頭or圭頭)
	12 御領原2号墳	金銅装双竜環頭大刀
	13 白根	金銅装頭椎大刀
	武	14 渋田1号墳
14 渋田2号墳		金銅装大刀 (柄頭不明)
15 大蔵寺横穴墓		金銅装大刀 (柄頭不明)
16 本郷遺跡 (住居覆土)		金銅装単鳳環頭大刀
鎌倉別	17 川名新林横穴墓群	金銅装単鳳環頭大刀
	18 窪がり横穴墓	(銅製鍔出鏢)
	19 烏ヶ崎横穴墓	金銅装方頭大刀
	20 吉井城山横穴墓群	銅装大刀 (鉄製組象嵌鏢)

相模地域における装飾大刀の分布

らちめん古墳

伊勢原市教育委員会

らちめん古墳は三之宮比々多神社の本宮があったといわれる三ノ宮字宮上、現在の恵泉女学園大学の用地内に位置します。この地について、江戸時代に書かれた『新編相模風土記稿』には「埴免（らちめん）」と表記されています。

古墳は昭和41年の校舎建設に伴って発見され、國學院大學により大型の横穴式石室の調査が実施されました。その結果、銀装の大刀、金銅装の馬具、銅鏡、鉄鏃等が出土しました。銀装大刀は柄部分に細い銀糸が巻かれ、鞆にも銀の飾り金具が装着されています。金銅装の馬具には、同じデザインの飾り板をもつ轡くつわと杏葉ぎょうよう、木製の鞍くらを飾る金銅の金具が認められ、鉄製の吊り金具の所在から木製の鞍あぶみを伴っていたと考えられます。特に鞍金具は県内出土3例のうちの一つ、金銅装の鏡板付轡も相模地域では他に登尾山古墳とのおのやまに例をみるのみです。その副葬品は登尾山古墳と並び、相模国を代表する内容といえます。

また、平成12年に実施された校舎建て替えに伴う調査では、墳丘の一部と周囲に巡る周溝が確認され、らちめん古墳が直径40mの規模を有することが明らかになりました。

さらに、平成14年には東海大学考古学研究室と伊勢原市教育委員会により、石室の再調査が実施され、石室の測量図面が作成されました。また、國學院大學の調査時の出土状況等も確認されました。



らちめん古墳の位置

石室は、恵泉女学園短期大学の校舎のわきに現在も保存されています。



金銅装の鞍

木製の鞍に装着された金銅製の鞍金具です。



銅鏡

直径8.5cmの小さな鏡です。

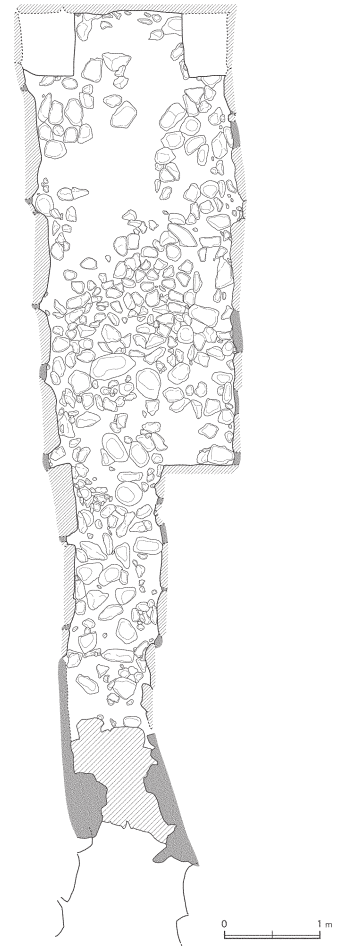


鏡板（上）と杏葉（右）

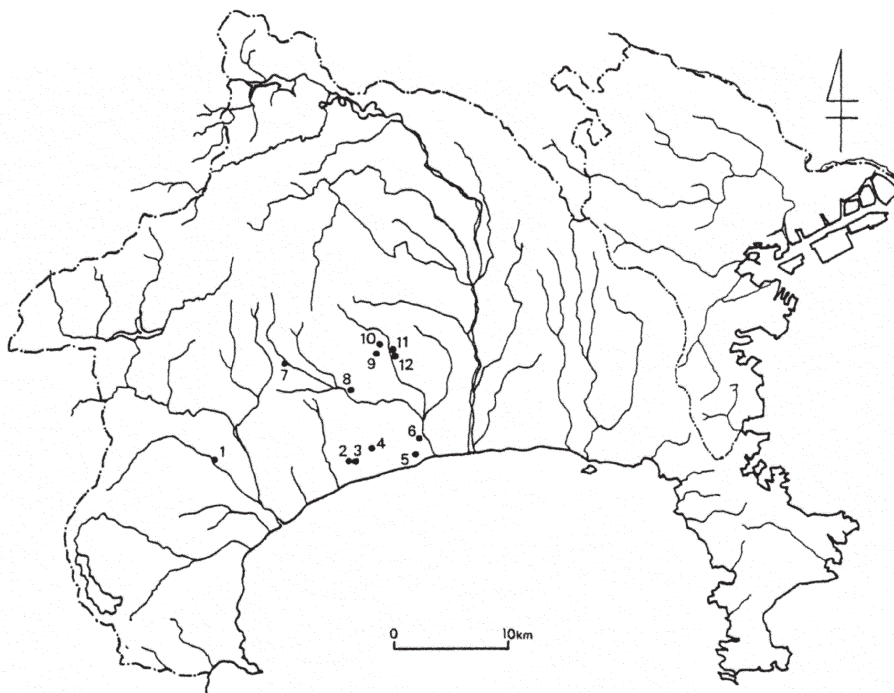
馬の轡くつわに着く鏡板と、馬の胸や腰の部分を飾る杏葉は同じデザインです。

神奈川県内、特に相模地域において、金銅装馬具の出土状況を見たものが下の図です。相模地域の出土例は13例を数えますが、その多くは帯金具や辻金具といった馬に轡くつわや鞍くらを固定する革帯に用いる小さな部品です。鏡板付の轡や杏葉、鞍金具等の本格的な馬具の出土は限られており、南足柄市の塚田2号墳、平塚市の高根横穴墓群8号墓、そして、伊勢原市のらちめん古墳、登尾山古墳となります。特に相模川以東に分布が見られないこと、伊勢原の三ノ宮地域に集中することが特筆されます。なかでもらちめん古墳は、轡、鞍、鐙、付属品と馬具一式がそろった唯一の事例として、貴重な資料とすることができます。

以上のように、らちめん古墳は墳丘の規模、石室の大きさ、副葬品のすべてにおいて、相模国一と言っていい内容を備えています。登尾山古墳と並び、6世紀後半から7世紀頃にかけて、相模国を治めた最高権力者を葬るにふさわしい古墳と言えるでしょう。

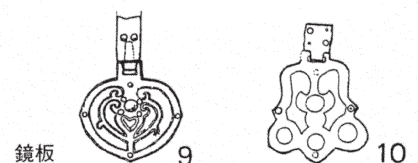


石室の全長は約9mで、幅1mの細い通路の奥に遺体を納める部屋（玄室）があります。その大きさは幅2m、長さ4.8mを測ります。通路から右側だけに玄室の幅が広がる片袖式という形式です。大きな石を使っています。



相模国領域出土の金銅装馬具

No.	遺跡名	種類
1	塚田2号墳	しおで金具、鞍金物
2	源訪陵西9号横穴墓	帯金具?
3	源訪陵C6号横穴墓	帯金具
4	下田6号横穴墓	しおでの座金具?、二脚鉾
5	前谷原横穴墓群	辻金具
6	高根8号横穴墓	花形杏葉、雲珠
7	板土手38号墳	辻金具、帯金具
8	曾屋大字斎ヶ分	雲珠、辻金具
9	登尾山古墳	鏡板付轡、杏葉、雲珠、辻金具、帯金具、二脚鉾
10	らちめん古墳	鏡板付轡、杏葉、鞍金物
11	三ノ宮3号墳	雲珠
12	鈴川古墳	雲珠、カコ



相模地域における金銅装馬具の分布

登尾山古墳

伊勢原市教育委員会

登尾山古墳は、昭和 35 年に偶然発見され、神奈川県教育委員会と國學院大学の手で発掘調査が実施されました。その結果、川原石を積み上げた横穴式石室が確認され、その内部から数々の遺物が出土しました。

この古墳は三之宮比々多神社の西側、標高 110 m ほどの丘陵上に位置します。痩せ尾根上に立地することから墳丘の規模は大きくありません。しかし、南側の眺望は素晴らしく、大磯丘陵から相模湾、江ノ島、三浦半島までを望むことができます。まさに選ばれた地という印象を受けます。

市指定文化財に指定されている主な出土遺物は、圭頭大刀など金銀で飾った装飾大刀を含む複数の直刀、金銅装の馬具、銅鏡、銅鏡、須恵器高坏、土師器坏等です。さらに、周辺からは家形埴輪や人物埴輪も出土しています。金銅製の馬具には、鏡板付轡、杏葉、雲珠、辻金具、帯飾金具等があり、鞍を除く一式が認められます。

特に、金銅製の馬具、金の飾りが付けられた大刀、銅の鏡、大型の家形埴輪は、いずれも県内屈指の遺物です。金銅製の鏡板付轡は相模地域で 2 例（もう 1 例は伊勢原市らちめん古墳）、高台と蓋が付いた銅鏡、組み合わせ式の家形埴輪は相模唯一の出土例となります。さらに、ひとつの古墳から金銀の飾り大刀が 2 例出土しているのも、登尾山古墳だけとなります。

圭頭大刀

金の柄頭と鐔をもつ飾り大刀です。



登尾山古墳の位置

三ノ宮と坪ノ内を分ける尾根上に立地します。



鏡板付の轡



金銅製の杏葉

鏡板と同じデザインです。

下の図は、後期古墳としては珍しい銅鉢と銅鏡の分布を示したものです。県内の出土例は、銅鉢が4例、銅鏡は5例と限られています。登尾山古墳では両者がそろって出土しており、さらに銅鉢は、県内唯一となる高台と蓋が付くタイプです。

以上のように、登尾山古墳には、飾り大刀、金銅製の馬具、銅鉢、銅鏡、さらに埴輪と、古墳時代後期のステータスシンボルともいべき貴重な品々が納められていました。そして、これらがひとつの古墳から出土した県内ただひとつ例です。こうしたことから、この登尾山古墳に葬られた人物は6世紀後半から7世紀にかけて、相模地域を支配した最高権力者であったと考えられています。

また、三ノ宮地区では、らちめん古墳のように、登尾山古墳と肩を並べる内容の古墳も見つかっています。さらに両古墳ほどではないにしても、優れた内容の副葬品が出土している古墳も点在しています。三ノ宮地区周辺は、後期古墳の内容としては県内屈指の存在であり、相模の支配者層の神聖な墓域であったと考えられます。



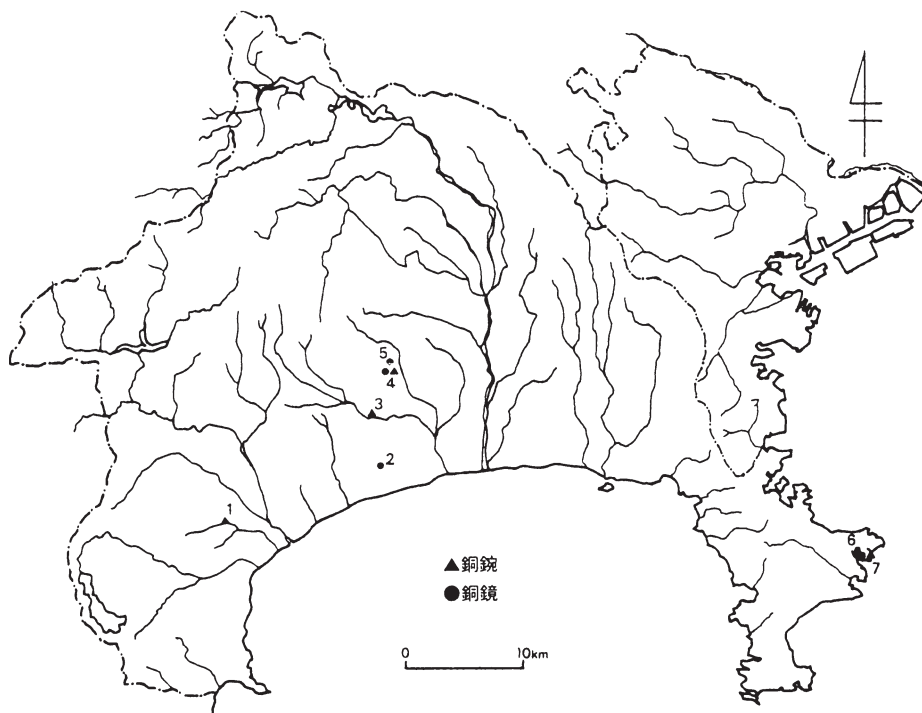
銅鉢

高台、蓋付きは県内唯一です。



銅鏡

らちめん古墳と並び、県内5例のうちのひとつ。

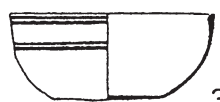


相模国領域出土の銅鉢・銅鏡

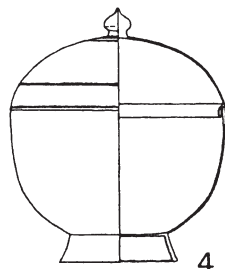
	遺跡名	備考	No.
銅鉢	総世寺裏古墳		1
	岩井戸横穴		3
	登尾山古墳	有蓋高台付	4
▲	鳥ヶ崎横穴墓		7
銅鏡	下出6号横穴墓	乳文鏡	2
	登尾山古墳	五獣形鏡	4
	らちめん古墳	乳文鏡	5
	鳥ヶ崎B横穴墓		6
●	鳥ヶ崎横穴墓	珠文鏡	7



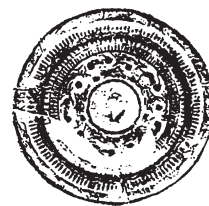
1



3



4



4

銅鏡

相模地域における銅鉢、銅鏡の分布